

令和元年度 第1回 美濃市総合教育会議 会議録

1 開催日時

令和元年7月23日(火) 午前11時05分～午後0時05分

2 開催場所

美濃市防災中央コミュニティセンター2階中会議室

3 出席者(構成員)

市長(議長)	武藤鉄弘
教育長	樋口宜直
教育委員	中島正憲
教育委員	市原慶子
教育委員	藤川貴子
教育委員	別府徹也

4 事務局

教育次長	澤村 浩
教育総務課長	井上博司
学校教育課長	家田陽介
人づくり文化課長	早戸智也
秘書課長	西部睦人
秘書課課長補佐	幅 仁史
教育総務課総務係長	須田耕一

5 報道関係者・傍聴者

報道関係者 0名 傍聴者 0名

6 会議事項

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 会議事項
○美濃市の子ども達をどのように育てたいか

7 会議録＜開会 午前 11:05 閉会 午後 0:05＞

発言者	発言内容
西部秘書課長	<p>定刻となりましたので、ただいまから第1回的美濃市総合教育会議を開催いたします。はじめに武藤市長がごあいさつ申し上げます。</p>
武藤市長	<p>ようやく梅雨も明けましたが、昨日、牧谷方面では時間雨量 74mm、150mm 弱、曾代の 1 5 6 号線では、142 mm の雨量を観測し、あと 8mm 多く降っていたら通行止となる所でした。通行止となると 3 時間以上 2mm の雨量があれば解除とならないため心配でした。長良川鉄道は美濃洲原間で冠水し 10 時間ほど不通となり高校生には迷惑をかけたのではないかと思います。</p> <p>この総合教育会議が始まり、今年で 6 年目となりますが、はたして総合教育会議では何をすべきかを考えています。最初は美濃市の子どもたちを行政と教育委員会を合わせてどのように育てていくかという課題でしたが、令和元年度（新しい時代）を迎え、それが正しいのかどうかの検証を含め、修正しながらやっていきたいと思ひます。</p> <p>本日は、学校の現状はどのようなかを考えながら議論をお願いします。また、武義高校の藤田校長先生をお迎えし、保育園（幼稚園）から始まり、小学校、中学校、そしてどのような高校生となっているかのお話を聞き、新しい理想の高校生を出していくべきなのか、今までどおり着実に進めていけばいいのかを、皆さんの意見を聞きながら進めていきたいと思ひます。</p>
西部秘書課長	<p>次に樋口教育長、ごあいさつをお願いします。</p>
樋口教育長	<p>教育委員会定例会に引き続き、総合教育会議をよろしくをお願いします。今回のテーマは「美濃市の子ども達をどのように育てたいか」です。</p> <p>小中学校の教育の根幹であり、基本的なことをなすところであり、小中高合わせて、皆さんの目に映っている美濃市の子どもたちをどのようにつなぐかを再確認しながら、さらにこういうことをやっていくと良くなっていくのではないかと、力が付いていくのではないかとこの意見交流をお願いします。</p>
西部秘書課長	<p>ここからは、美濃市総合教育会議設置要綱第 4 条に基づいて市長が議長となりますので、会議の進行をお願いします。</p>

<p>武藤市長</p>	<p>それでは、要綱に基づき、議長を務めさせていただきます。</p> <p>本日の会議の進め方ですが、事前にご案内させていただきましたとおり、テーマの「美濃市の子ども達をどのように育てたいか」について、皆さんと率直な意見交換を行いたいと思います。</p> <p>個人的な意見で構いませんので、ご自身であれば、美濃市の子どもたちをどのように育てたいか、また、どのような教育を受けさせたいか、など学校教育に限らず、社会教育や家庭教育のことも結構ですのご発言をお願いします。</p> <p>今回は、多くの意見をいただき、来年度事業、現在、第6次総合計画の策定に入っていますが、その参考にしていくことを目的としておりますので、ご了承くださいませようお願いします。</p> <p>また、今回は小中学校のことだけではなく、高校にも目を向けていきたいと考えておりますので、本日は、武義高等学校の藤田校長から武義高校の様子や状況について、ご報告をいただきますので小中学校に限らずご意見をお願いいたします。</p> <p>それでは、最初に事前に配布しました資料のうち、小中学校における子どもたちと教職員の様子について、家田学校教育課長から説明をいたします。家田課長、お願いします。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>【令和元年度第1回総合教育会議 別紙資料により説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1「平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果」のとおり、【市全体の様子】、【小学校】【中学校】の傾向、【質問紙調査】について、説明する。 ・資料2「不登校・いじめについて」のとおり、6月末までの不登校の様子について説明する。 ・資料3「教職員について」のとおり、全国学力学習状況調査結果から分かる教職員の姿、長時間勤務による「働き方改革」の問題、部活動についての先生の休養日、いじめの未然防止・早期発見、地域や保護者との連携した活動、授業日に行う研修会の精選を説明する。 ・資料4「平成30年度 進路状況（在籍生徒数167名）」のとおり、 <ol style="list-style-type: none"> 1. 美濃地区の入学定員の増減について 2. 美濃地区公立全日制への進学者数について 3. 他地区・国公立全日制への進学者数について 4. 私立全日制への進学者数について 5. 公立定時制・私立通信制への進学者数について 6. 校種別進学割合について 説明する。

武藤市長	<p>続きまして、武義高の様子や状況について、伺いたいと思います。 藤田校長、よろしくお願いします。</p>
武義高校 藤田校長	<p>【(武義高) 令和元年度第1回総合教育会議 別紙資料により説明】</p> <p>生徒の様子について、美濃市からの生徒は昔に比べ減っていますが、昨年の学校案内にもあるように、市内の田代さんが生徒会長、大野さんが商業科から国公立の滋賀大学へ進学、宮嶋さんがテニスでインターハイ出場、国体で6位入賞、筑波大学合格というように全体として頑張っています。</p> <p>生徒の態度について、美濃市の生徒に限らず、生徒全体として穏やかな感じで授業もしっかり受け、一生懸命取り組んでいます。</p> <p>いじめについては、高校生ともなると、SNS上で時折出てきますが、大きな問題とはなっていません。本校は大人しい生徒が多いためか不登校の生徒が毎年5名前後いますが、美濃市の生徒はいない状況です。</p> <p>学校としては、美濃市から流れていく生徒を少しでも減らしていきたいと考えています。結局は進学のことになりますので、特進クラスの体制を整えて、昨年から補習体制を充実させています。PTAからの補助もあり、東京の予備校の講師の授業を参考として行っています。徐々にではありますが、先ずは国公立大学への進学実績を出していきたいと考えています。美濃市の生徒ではないですが、今年は8年ぶりに名古屋大学への合格実績もできました。今後は着実に進学実績を上げながら体制を強化していきたいと考えています。</p> <p>働き方改革について、岐阜県の県立高校では、土日は一日、平日も週一日、大会が近い場合は代わりの日に休みを取るようにしています。</p> <p>制服について、LGBTの件で県から指導もあり、今年の一年生からは、Aパターン、Bパターンから選べるようにしました。結果的にはこれまでのパターン以外の制服を着る生徒はいませんが、女子はスカートでなく、ズボンでも対応できるようにしています。</p> <p>高校入試制度については、今までは学科を選ぶ形でしたが、今年の中学3年生から高校を選ぶ形となり、普通科を第1志望とし、第2志望で商業科、第3志望で情報処理科を選択するようになると聞いています。</p> <p>関商工は市立のためできませんが、県立高校ではそれができることになります。</p> <p>今年、普通科で不合格とした分が定員割れし、二次募集で入ってきたことがあっての対策かと思います。</p> <p>ふるさと教育について、本校では美濃市、関市の生徒が大半であり、県の方針で昨年10月に、その学校の自治体に応じたふるさと教育を行うこととされています。地元で活躍されている方の話を聞いたり、地域の魅力</p>

	<p>や課題を探求させており、美濃市では番屋の池村修二氏、企業では辻晃一氏、福祉医療関係の人員不足の話で社会福祉協議会長の堀部勉氏、関市の生徒もいるので、関市役所からもまちづくりの関係者や、去年の津保川の氾濫の件で防災関係者などの話を聞きながら、少しでも地元貢献する生徒になるよう取り組んでいます。高校では今までは企業見学は行っていませんが、かなりの予算がついており、高校教職員を退職された方から作られている関市のみんなの就職サポートセンターと相談して9月には大学を出て就職するような企業を訪問し、1人でも多く地元に戻ってくるような取り組みを行います。</p> <p>ICT教育について、全教室でホワイトボード、プロジェクターが設置され、今までのチョーク1本での授業とは違うパーフェクトな授業ができると考えます。</p> <p>進路状況について、別紙資料の表により、今年の卒業生191名、就職した生徒は28名、今年度の就職希望者は26名であり、130～140社の地元中心企業から求人がありますが、高卒の段階では難しい状況です。みんなの就職サポートセンターと連携し、進学して地元へ戻らないことへの対応として、今年の卒業生から、進学した生徒も含め、名簿の届出により、就職の時期に求人情報が個人に届くような取り組みを行います。</p> <p>オープンキャンパスを実施し、定員200名に対し466名が見に来てくれましたが、大半は関市の生徒であり、もう少し美濃市から来ていただきたいと思います。</p> <p>高校の現状・課題については、少子化により、高校の現状 地区別中学校卒業予定者数において、美濃地区では関市では卒業生55人減、美濃市でも26人減、郡上市では増、計46名ですむのかと心配しているところです。</p> <p>美濃市はその中でも生徒数は割と安定しているのではないかと感じています。</p> <p>美濃地区には6高校ありますが、今後900人台まで減った時のことを心配しています。今後は1人でも多く確保できるよう頑張っていきたいと思います。</p>
武藤市長	<p>ただいま、家田課長、藤田校長から伺いました状況などについて、感想やご質問はありませんか。</p>
中島委員	<p>今の高校生は進学する生徒が多いが、目的を持って進学しているのか、まず進学してから何をするか決めるのか、進学希望者の気持ちはどのようなか。</p>

<p>武義高校 藤田校長</p>	<p>しっかり考えている生徒、進学してから考える生徒、両方います。</p> <p>女子において、看護医療系を希望する生徒が多いようです。今年は3年生のうち40人ほどが希望していますが、本当に本人の意思なのか親の提案なのかが分からない状況です。将来のことを考えると安定したイメージですが、大変な仕事なので、看護体験をしながら考えていってほしいと考えています。</p> <p>ふるさと教育の会議において、病院でも人材の確保が大変と聞いています。大学や短大など学校を卒業後、美濃病院へ勤める約束で看護学校へ行けば、毎月5万円の奨学金が出るとのことでしたので、全クラスに美濃病院への看護体験の案内をいたしました。去年は希望者はいませんでした。今年は6人くらいいたため、これからも情報提供をお願いし、生徒に伝え、しっかりとした考えで進学するよう指導していきます。</p>
<p>中島委員</p>	<p>教師が不足していると聞いていますが状況はどうですか。また、教師になろうという生徒はいますか。</p>
<p>武義高校 藤田校長</p>	<p>他校では、郡上北高では英語の講師一人、郡上高では国語一人、関高では数学の教員13人(非常勤講師4人)いるが不足しているとのこと。武義高は今年はよかったです。関商工が一番不足しており、国語の常勤2名、英語、数学も合わせ6名の不足とのこと。本校では、教育実習生が去年は5人でしたが、今年は特別支援学校希望の1名しか来ていない状況です。</p> <p>岐阜大学教育学部でも教員志望の別枠での推薦があるので、それを利用していきたいと思っており、次世代の教員をつくるよう頑張っています。</p>
<p>中島委員</p>	<p>小中学校で、夢を持っている子どもはいますか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>小学校では、それぞれ夢を持っていますが、中学校に入り現実的になってくると諦める子も多いと思います。</p>
<p>中島委員</p>	<p>例年、少年の主張を聞くと、希望や夢をはっきりと言う子が多いので、そういう子どもたちが多いのかと思いましたが、あれはごく一部の子どもに限られますか。</p> <p>夢を応援してあげられる地域があれば子どもたちは育っていくのではないかと。地域がその夢を見過ごしてしまい、諦めない様に、大人は何ができるのか、実現してあげられるだけの地域の環境づくりが必要ではないでしょうか。</p> <p>子どもたちの夢が何かということを経験収集し、応援できると良いので</p>

<p>教育長</p>	<p>はないかと思います。</p> <p>昨年のデータでは、自分の夢をもっている子どもは、小学生8割、中学生6割であり、2割減となり大きな節目であります。高校ではもっと減ります。どんな夢かは分析していませんが、小学生の時の思いが中学生になるといろんな現実が分かってくるため諦めてしまうことが2割の差なのではないかと思います。小学校からのキャリア教育は大事ですが、中学生のキャリア教育もしっかりやらないとさびしい生徒を育てることになってしまうと思います。</p>
<p>藤川委員</p>	<p>夢、将来の展望を考えることは大事ですが、私はそれだけの夢をもって進学してなく、今の子どもたち、孫を見ていると、生きていく力が不足しているように思います。</p> <p>子どもたちは、それぞれの家庭環境の中で、保育園・幼稚園に入園し、いわゆる教育の専門家たちに任せて育てられ、家庭教育が疎かとなり、社会で生きていくためのしつけや、困難にぶつかった時にどうするかという力が欠落しているような気がします。</p> <p>いじめの問題についても、私達の時代もあったと思いますが、なんとかクリアしてきました。今の子どもたちは、まともにそれを受け、親も自分達の責任ではなく学校の責任と捉えられるため、いかなものかと思います。</p> <p>今の子どもたちは、かなりしたたかであり、大人以上に知恵を持っている反面、問題が起こると、どうしたらいいのか分からないという弱いところがあると思います。</p>
<p>武義高校 藤田校長</p>	<p>今年3月の小中高の会議で、小中学校では、つまづかない・しからぬ指導をしているため、そういう生徒が高校へ入るということを十分理解しての指導をお願いされました。本校の教員にはそのとおりに伝えています。</p> <p>小中では保護者との関係が厳しい部分もあったのではと思いました。</p>
<p>藤川委員</p>	<p>高校で今までの教育によって培われた自分を変えることは無理であり、環境が昔と違うのでどうしたらよいかは分かりませんが、学校は地域と協力し、家庭でも親がそれだけの力を持っていかなければならない、家庭教育が弱まっていると感じています。別府委員さんは中学生の子どもさんがいますが、どうでしょうか。</p>
<p>別府委員</p>	<p>家庭教育について、例えばスポーツ一つをとってみても、子どもはバドミントンを小学校から親の影響もあってやりはじめましたが、中学校へ上</p>

中島委員	<p>がってその部活動がなかったためつくっていただきました。そういったスポーツの受け皿がない場合があり、子どもは悲しいのではないか。スポーツで、団体生活をすることによって、上下関係や仲間意識ができると思います。</p> <p>藤川委員は、生きる力とはどのようなことと思われませんか。</p>
藤川委員	<p>例えば、他校の子と一緒にいても、打ち解けてやっていけたり、困難にぶちあった時に立ち直れる方法を持っている、折れない子どもという意味です。市原委員はどのように思われませんか。</p>
市原委員	<p>皆さんの言われることはよく分かります。</p> <p>自分の会社で社員を雇わせていただいた際、常識的なこと、例えば雑巾の絞り方ひとつとってみても、家庭で身につけていない人もいます。</p> <p>ある大企業の社長とどのような人を雇うかについて話した際、皆軟弱で少し怒っただけで辞める人がおり、社員を採用する際は、小中高ずっとクラブ活動をやっていた人を選ぶとのことです。学歴もありますが、先輩との上下関係を学んできているところを見て選ぶと話していました。クラブをやって鍛えられているから大丈夫、学力だけでなく、クラブ活動で鍛えられた人、社会経験豊富な人のように、生活年齢を高めることが必要であると思います。</p>
武藤市長	<p>皆さんの意見は、主に、夢をかなえる環境づくり、生きていく力をどうつけるのか、家庭教育をどうしていくのか、生活年齢を向上させるしかけづくりということでしたが、岐阜県のふるさと教育では、岐阜県から愛知県へ毎年5,000人が流出しており県内企業の人材が不足し、なんとかしなければならぬとしています。知事は基礎調査をしっかりと行い、Uターンをさせるしかけをつくり、今年度予算に反映されています。現実問題として、ふるさと教育をすれば、本当に地元へ帰ってくるのか疑問に思っています。</p> <p>牧谷小学校では紙すき体験を行っていますが、今年の「わたしの主張大会」では、女子児童が紙すきを将来やりたいことを発表されました。今、美濃市の後継者がなく、なぜなんだろうと思ってたところ、こういった主張があり大変嬉しく思い、紙すきをやっていけるようなしかけにしていきたいと思っています。</p> <p>次回の会議までに、本日の意見を踏まえ、どんなアイデア、施策をやったらよいのかを考えていただきたい。</p> <p>一例として、個人的な意見ですが、武義高の教室を借りて代々木ゼミナ</p>

<p>西部秘書課長</p>	<p>ールの通信の塾を毎日行い、経費は市が負担し、対象は武義校生のみとすれば、武義高志望者が増えるのではないか。あるいは中学校において、子どもをいい大学へ行かせるため、関市の塾へ行かせる手段がないので、デマンドタクシーを関市までとの要望があり、そうしたことをどう考えるか。親から見れば、いい大学に行けばいい就職ができると幻想的なところがあります。武義高への志望者が増えれば、武義高がなくならないと思います。</p> <p>皆さんの発想で良いアイデアをお願いできたらと思います。</p> <p>できれば、予算時期の前までにはご意見をいただき、できるものは予算に反映させたいと思います。</p> <p>今、第6次総合計画の委員を募集をしており、公募しましたがほとんどいませんので、ご協力をお願いします。</p> <p>藤田校長先生におかれましては、本日は新しいお話しをありがとうございました。</p> <p>予定の時間となりましたので、本日は以上とさせていただきます。</p> <p>それでは、議長の任を解かせていただきまして、事務局へお返しします。</p> <p>それでは、以上で第1回の総合教育会議を閉会といたします。</p> <p>慎重なご協議をどうもありがとうございました。</p>
---------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

令和元年度 第2回 美濃市総合教育会議 会議録

1 開催日時

令和元年11月20日(水) 午前10時30分～午前11時45分

2 開催場所

美濃市防災中央コミュニティセンター2階中会議室

3 出席者(構成員)

市長(議長)	武藤鉄弘
教育長	樋口宜直
教育委員	市原慶子
教育委員	中島正憲
教育委員	別府徹也
教育委員	長瀬秀子

4 事務局

教育次長	澤村 浩
教育総務課長	井上博司
学校教育課長	家田陽介
人づくり文化課長	早戸智也
秘書課長	西部睦人
秘書課課長補佐	幅 仁史
教育総務課総務係長	須田耕一

5 報道関係者・傍聴者

報道関係者 0名 傍聴者 0名

6 会議事項

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 教育長あいさつ
- 4 会議事項
○美濃市の子ども達をどのように育てたいか

7 会議録<開会 午前 10:30 閉会 午前 11:45>

発言者	発言内容
西部秘書課長	<p>定刻となりましたので、ただいまから第2回的美濃市総合教育会議を開催いたします。はじめに武藤市長がごあいさつ申し上げます。</p>
武藤市長	<p>寒くなってまいりましていよいよ冬となり、体調管理には十分気をつけていただきたいと思います。例年、2回目の会議は遅い時期ですが、皆様の意見を来年度予算に反映できるものがあればと思いこの時期に行わせていただきました。</p> <p>全体の状況を見ながら、日頃の皆様の活動の中で、これからの教育はどうあるべきか、どのような子どもが必要か、国や県の施策はどうのようか、必ずしも国や県の施策が正しいとは限らないし、それぞれの思いでの理解の仕方も違うので共通認識としながら、美濃市の子どもたちの将来に渡った人づくりにつながるよう、思い付き、批判も大いに結構でありますので、是非ご忌憚のない意見をお願いし、その中で何が一番正しいのかより良いものを目指していきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。</p>
西部秘書課長	<p>次に樋口教育長、ごあいさつをお願いします。</p>
樋口教育長	<p>教育委員会定例会に引き続き、総合教育会議をよろしく申し上げます。</p> <p>定例会において、この総合教育会議にも関わるご意見も聞かせていただきましたが、このテーマについても、思いを聞かせていただき、令和3年度からの次期教育大綱へ反映させていきたいと考えていますのでどうぞよろしく申し上げます。</p>
西部秘書課長	<p>ここからは、美濃市総合教育会議設置要綱第4条に基づいて市長が議長となりますので、会議の進行をお願いします。</p>
武藤市長	<p>それでは、要綱に基づき、議長を務めさせていただきます。</p> <p>本日の会議のテーマですが、第1回に引き続き「美濃市の子どもたちをどのように育てたいか」について、皆さんと意見交換を行いたいと思っております。</p> <p>その前に、先般、民生教育常任委員会のみなさんと市長が、保育園の保護者会とのガヤガヤ会議を行いました。その中で、昨年度と今年度に5歳児の保育料約3千数百万円を無償化したことについて、保護者の方はそのお金を何に使ったかをお尋ねをしました。大半の方はこれからの教育費等</p>

	<p>のために貯金をしたり、習い事に使ったりご飯を食べに行ったりしたとのことでしたが、感動したのはランドセルを買った方がいたことです。一般的には祖父母が買うのかと思っていました。正しい使い道かは判断できませんが、市としては大きな金額のため、その使い道をお尋ねしました。</p> <p>小中学校のPTAからは先般、要望がありました。毎年同様なものが多いようです。PTAは任期一年であるため、繰り返しにより同様のものとなるようですが、要望全部を行うことは難しいため、何か一つか二つテーマ目標を決め、進捗を確認しながら要望していただくようお話ししました。</p> <p>それでは、最初に事務局から第1回での意見等を報告させますのでよろしくお願いします。</p>
教育総務課長	<p>長瀬委員におかれましては、今回はじめてということになりますが、資料をご確認していただきながら、意見を発言いただければと思います。</p> <p>第1回総合教育会議の中で武義高校の現状等について藤田校長先生より説明を受けた後、話し合いを行った要点として、「子どもは夢を持っているのか」「生きていく力が弱いのではないか」について、各3つから4つの意見、課題等が出されており、それに対して4つの柱で、どうしていったらよいかについてまとめました。次に資料1は前回の会議録の中から意見交換のための資料として抜粋したものです。</p> <p>意見交換の材料として「全国学力学習状況調査」の結果を学校教育課長から説明いたしますのでよろしくお願いします。</p>
学校教育課長	<p>それではここで前回の総合教育会議で話題となりました子どもたちの夢や家庭の様子などについて、資料2の全国学力学習状況調査の結果を参考にいただきましてご意見をお願いします。</p>
武藤市長	<p>5分間、資料の確認時間を取らせていただき、その後自由に発言願います。</p>
長瀬委員	<p>全国的なものとは比べ美濃市での傾向はどうか。</p>
学校教育課長	<p>本日は、そこまでの資料はご用意しておりません。</p>
中島委員	<p>それぞれの家庭により方向性は違うとは思いますが、ある家庭では、3高といわれるように、良い学校から良い就職先への目的を持っている方もいれば、こういう子どもに育てたいという思いを持っている方もいます。色々な方向性があり、これが良い方向性だとは一概には言えませんが、昔</p>

<p>長瀬委員</p>	<p>は親の意向や子どもへのすり込みで子の進路を決めることが多かったと思います。現在はそうではなく、自分の意思で決められない幼い時期に、子どもたちに選択肢を与えられるような環境を作ってあげることが必要に思います。子どもたちに何になりたいのか聞くも、逆に何になれるのといったことになります。世の中には宇宙飛行士、パイロットなど、沢山の選択肢があります。</p> <p>教育面で考えれば、先日の白川学園の視察で感じたことですが、一貫教育の中で長いスパンで連続的に考えることが必要であり、悪いことは改善しながら、良い環境を与え、継続していくことが大切だと感じました。</p> <p>子どもに選ばせるには、幼いころから良い環境を与えることが大事であり、それが大人の仕事であると思います。</p> <p>今の意見に大賛成で、夢があったり、頑張れる子どもは、健全な生活をしている子どもであると思います。全国学力学習状況調査結果にもあるように、睡眠時間の短い子どもが増えています。私も教員として勤務していましたが、睡眠不足から授業中も元気がなく、先生がいくら頑張っても無駄となるため、健全な生活をさせることが必要があると思います。早く寝て朝ごはんをしっかり食べるのが大切です。</p> <p>睡眠不足にならないように、学校教育、家庭教育などを通してしっかり行っていく必要があると思います。</p> <p>また、中高生のボランティア活動についても、大人たちの頑張っている姿を見せることで、こういう大人になりたいと思うような状況を作る上では、とても大切であると思います。</p>
<p>市原委員</p>	<p>今は、大人たちに余裕がなく、家で一人でご飯を食べる子どもが増えてきていると聞いています。昔は家でおじいちゃんやおばあちゃんや皆でご飯を食べたりして、子どもたちが包み込まれるような気持ちであったと思いますが、今は家族皆で楽しくご飯を食べて過ごすという気持ちに欠けていたり、地域でもお節介なおばさんが少なくなるなど、子どもたちは、自由ですが、孤独であるように思います。今、私達がやっている仕事が将来もあるかどうかわからないような混沌とした世の中で、どうやって子どもたちの夢を伸ばしてあげられるか、もどかしいものです。</p> <p>愛情をもって育てた子どもは、人を受け入れやすい人となると思います。障がい者の子どもの指導をしていた時、親御さんに拒否された子どもと愛情をもって養育された子どもとは違ってくると感じました。</p> <p>地域での子どもたちへの関わり方が子どもの将来につながると感じます。</p>

別府委員	<p>今のインターネットの時代、親も子どももスマホ等を使っている中、子どもたちといかにコミュニケーションがとれるか難しいと考えます。</p> <p>親もインターネット環境との付き合い方を考えなければならないと思いますし、親がやっているのに子どもに駄目だと言ってもそれは無理な話だと思います。PTA役員をやっていた頃、外食した時、ある家族が全員携帯電話を眺めており、子どもが話しかけようにも話しかけられない状況を目にして啞然としました。子どものことを考え、親も戒めをしながら、インターネットへの関わりを親も子ども両輪でやっていく必要があると思います。</p> <p>全国学力学習状況調査の結果については、当たっているように思います。</p>
武藤市長	<p>今の話を聞いて、子どもより親をどうすればよいかと思いました。</p> <p>子どもに選択肢を与えるには、いつの時期がよいのかお尋ねします。</p>
中島委員	<p>コンビニやスーパーへ夜遅く行くと、ベビーカーで子どもを連れて来る親がいます。夜泣きが治まるとのことですが、私達の世代には考えられない行動です。孫にはタブレット端末を触らせて遊ばせる、そんな時代に親の意識を変えることは無理ではと考え、子どもを変えることを頑張っています。</p> <p>子どもに与える選択肢については、色々なことをやってみなければわからないため、保育料の無償化についても、どうしたら無駄にならないかを考えてやっていかなければならないと思います。教育という壮大な問題には、長いスパンの中で実践と検証しながら行う必要があると思います。</p> <p>そのために今何をやらなければならないかを考えなければならないと思います。</p>
武藤市長	<p>子どもに与える選択肢について、例えば、宇宙飛行士を迎え、お話しを聞かせることは、子どものいつの時期がよいのか。現役で働いている有名な人で行いたい、学校側の時間がとれるのか。ANAやJALに頼めばおそらく無料で来てくれると思います。子どもたちに考えてもらうきっかけづくりとして聞かせて影響があるのはいつの時期がよいのでしょうか。</p>
学校教育課長	<p>いつの時期でも影響は受けるが、その時代の子どものニーズに応じた出会いがあるのではないかと思います。</p>
長瀬委員	<p>小学生を教えていた時期に、伝記を読ませ興味を持たせる取り組みを行いました、子どもからの興味や食いつきがすごかったです。その生き方</p>

<p>武藤市長</p>	<p>とか思いに共感し、心の持ち方は同じであり、6年生または中3が適当であると思います。</p> <p>親も子どもと同じ子育ての年齢であり、子育てする上で、辛い時でも頑張れるような子育てをするよう、夢と希望がある環境づくりに心がけることが大切だと思います。</p> <p>今までのご意見を踏まえ、政策としてできるものは今後検討していきたいと考えます。</p> <p>次に現在、岐阜県ではふるさと教育を推進していますが、ふるさと教育について、教育長とも議論し、県が言うふるさと教育とは、人口減少を防ぐためのふるさとを考え帰ってくるような教育であり、何をしたらできるかについては、教育長は、良いところを知ってもらうことであると言われました。私の考えは、不便なところで良いところはないが、定年となり、故郷だから住みたいと思い帰って来る心の中の何かはそうさせると考えており、そういう心をどう育てるかが大切であると思います。</p>
<p>長瀬委員</p>	<p>主人が、釣りをさせれば必ず帰ってくると言っています。</p> <p>良いところは、山や川などの自然に直接触れ、町並み、人並みに、肌で感じて、戻ってくるのではないかと思います。</p>
<p>市原委員</p>	<p>私は大学は県外でしたが、社会福祉の実習で県庁へ行きました。障がい者には良いところで、美味しいものを食べさせるというスタンスでコロニー（ひまわりの丘）を作ることを聞き、間違いであると思口論したことがあります。その後、色々と研究し、岐阜県のやり方を直そうとアメリカへ渡る際的美濃橋を通る情景を思い出したりすることで、帰ってくる思いになりました。</p>
<p>中島委員</p>	<p>そうなると、懐かしさが重要であると思います。</p> <p>懐かしさとは、祭りや自治会や地域での活動であったり、同級生とのつながりなどが引き金となって広がるように思います。</p> <p>そういった懐かしさ、自分を育ててくれた環境を大事に思い住んでいる。こういう思いを子どもたちに気づかせることが大切であり、それがふるさと教育であるように思います。</p>
<p>武藤市長</p>	<p>現在の教育大綱でも入っていますが、次期の教育大綱では、そういったことの具体をどのように載せるかを考えていただきたいと思います。</p> <p>それでは、そういった意見も踏まえ、教育大綱について事務局より説明をお願いします。</p>

教育総務課長	<p>現在の教育大綱は、平成28年度から平成32年度までであり来年度で終了し策定するにあたり、皆様のご意見を十分にお聞きし、現在のものを継承しつつ、必要なものを加えながら作成していきたいと考えています。</p>
武藤市長	<p>現在の教育大綱は4年が経過し、検証がどこまでできるかはありますが、次回までに検証的のところ、具体的な内容を確認しながら、子どもたちの学力などの内容をできるだけ数値化して表せるようにしていただき、検討材料としたいと思います。</p> <p>次に、大学入試の記述式や民間の英語力テスト導入について、どう思うかご意見を伺いたいと思います。</p>
別府委員	<p>机上だけで決めたように思われ、親としては、もっとしっかり考えてほしいと思いました。</p>
長瀬委員	<p>小中学校では、表現力を重視して教えていても、最終の大学入試で、この方式だと、教え方も変わってくるので、対応が難しいと思います。</p>
教育長	<p>方式が変わった理由は、OECD生徒の学力到達度調査において、日本は常に上位でしたが、10年ほど前から7位に落ち、シンガポール、韓国、中国などが上がってきました。これは思考力、表現力の低下が考えられ、共通一次のマークシート方式が原因とされる。そこを改善するためのものであります。</p>
市原委員	<p>英語検定のTOEICはとても難しい。何回も受ければコツがわかり受かると聞いています。アメリカの社会情勢などの質問を英語検定の中で入れており、総合的な力が必要です。大学でも総合力はとても重要であると思います。</p>
教育次長	<p>私は20年近くサッカーを子どもたちに教えていますが、今の子どもたちは、大人しい子が多く、主体性がないように思います。</p> <p>何か課題を与えてやらないとできない状況です。</p> <p>教育とは、社会に出る子どもを作っていくことだと思うので、大人が社会とは、こういうところだと教えてやらなければならないと思います。</p> <p>社会で通用する子どもになるよう、学校と葛藤してやっていきます。</p>
武藤市長	<p>今までのご意見を踏まえ、来年度予算に合わせ、共通認識した中で教育大綱を進めていただきたいと思います。</p> <p>予定の時間となりましたので、本日は以上とさせていただきます。</p>

西部秘書課長	<p>それでは、議長の任を解かせていただきまして、事務局へお返しします。</p> <p>それでは、以上で第2回の総合教育会議を閉会といたします。</p> <p>慎重なご協議をどうもありがとうございました。</p>
--------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------